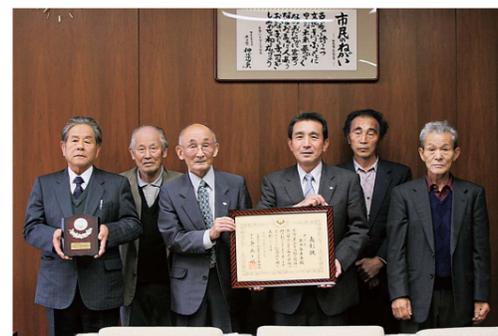


12月2日(月)

**全国老人クラブ連合会会長表彰受賞**  
熊木長寿会  
七尾市役所

中島町熊木地区の「横田・山戸田」谷内・宮前「上町」浜田の4つの老人クラブが集まって昭和38年に結成された「熊木長寿会」。その長年にわたる活発な活動が評価された。  
「熊木長寿会」は講師を招いた健康教室の開催など健康づくりに力を入れ、「シルバードー」の4人を中心に、クラブ員以外の高齢者にも積極的に参加の声掛けを行っている。橋本哲夫会長は「参加することが健康のもと。今後もこれまで以上に活動を続けたい」と意欲を見せた。



12月6日(金)

**小学生と高齢者のふれあい**  
思いやりの心を育む  
あつとほーむ若葉

天神山小学校の4年生61人があつとほーむ若葉を訪問し、高齢者と交流した。児童たちは、おじいちゃんやおばあちゃんに喜んでもらおうと、お手玉やけん玉など昔ながらの遊びを用意。高齢者の皆さんは「昔を思い出して楽しい」と夢中になっていた。  
児童たちは聞こえやすいように大きな声で話しかけたり、見ているだけの高齢者にも積極的に話しかけたりと、心配りを見せていた。石井あいさんは「楽しんでもらえてうれしい。これからもお年寄りを大切にしたいです」と話し、思いやりの心を育んでいた。



12月5日(木)

**地元の農業と食に**  
関心を深めよう  
見て、ふれて、味わって  
能登島地内

中島小学校3年生が地元の農産物にふれる体験を行った。スギヨファームでカブを収穫すると「スーパーでしかカブを見たことがなかった」と言う児童も。大きなカブが取れると満面の笑みを浮かべた。「大根みたいな匂い」と話す児童につられて、ほかの児童も匂いを確かめていた。  
その後、地元野菜で漬物を製造する八太郎漬本舗の工場も見学。初めて見る麹を恐る恐る口に入れ「おかゆみたいで、甘い」と驚く児童。木下優芽さんは「漬物作りは工夫していて、すごいと思った」と、関心していた。



12月8日(日)

**ふるさと伝統芸能子ども発表会**  
ふるさと愛が芽生える  
七尾サンライフプラザ

七尾市では「ふるさと」に誇りを持ち、将来、国際社会にたくましく生きる子どもの育成」という目標のもと、全小学校で、文化や風土を体験する学習が行われている。  
その成果発表が開催され、子どもたちは、満員の会場で緊張した面持ちではあったが、元気に発表していた。今回で3回目を迎えたこの発表会は、子どもたちにとって、地域の人たちからさまざまなことを教わることで、地域への深い愛情を芽生えさせ、さらにふるさと七尾を誇りに思う機会となっている。



12月12日(木)

**鶺鴒祭り(鶺鴒道中)**  
良い年になりますように  
鶺鴒浦町

年の瀬の風物詩、鶺鴒を羽咋市にある気多大社へ運ぶ「鶺鴒道中」が行われた。  
雪が降る中、3人の鶺鴒捕部が鶺鴒浦町中山武則さん宅を朝6時30分に出発。「ウツトリベ」の掛け声が聞こえると、住民が家から出てきて「鶺鴒」に手を合わせた。  
鶺鴒浦町の町会長松本米治さんは「去年は約80年ぶりに鶺鴒が獲れなかったが、今年は鶺鴒がつかまって喜んでる。来年はいい年になってほしい」と話した。鶺鴒浦町の住民は、来年が良い年になるよう鶺鴒を拜んでいた。



1月7日(火)

**はじめまして!**  
私たちの小丸山小学校  
新校舎初登校  
小丸山小学校

3学期から新校舎で学ぶ小丸山小学校の児童たちが初登校。ランドセルを教室に置き、先生と一緒に学校探検を行った。「新しい木の匂いがいいね。」「迷子になりそう」とうれしそうに探検する児童たち。  
新校舎は七尾産の木材を使い、温かみを感じられるように設計された。教室の前にはオーブンスペースがあり、さまざまな授業形態に対応。岩間美結さん(5年生)は「明るくてきれい。大切にしたい」と話した。児童たちは、新校舎でどんな思い出を作っていくのだろうか。



12月17日(火)

**沢野ごぼう料理教室**  
能登野菜を知ろう  
御祓中学校

御祓中学校の2年生が、七尾に古くから伝わる能登野菜を、料理を通して学ぶ授業を行った。能登野菜「沢野ごぼう」のきんぴらとゴマみそ和え作りに挑戦。沢野ごぼうは普通のごぼうより太く香りが強いのが特徴。切ると香りが広がり生徒たちから「いい匂いがする」と声が上がった。  
初めて沢野ごぼうを食べた、奥村瑞希さんは「普通のごぼうよりシャキシャキしていておいしい。地元の野菜なので、これからも食べたい」と話し、沢野ごぼうに関心を深めていた。



1月9日(木)

**昔ながらの正月遊び**  
時間を忘れ熱中  
田鶴浜保育園

田鶴浜保育園の年長児が、祖父母と一緒に昔ながらの正月遊びを体験。園児たちは、羽根つきやこま回し、かるたなどを祖父母から習い、思い思いの遊びを楽しんだ。  
なかでも難しかったのは、こま回し。おじいちゃんから手ほどきを受け、できるまで何度も挑戦。上手くこまが回ると飛び上がった喜んでいた。祖父母の皆さんも「子どもたちより夢中になると、童心に返り楽しんでいて、自ら竹馬に乗る場面も。園児も祖父母も、時間を忘れ遊びに熱中していた。」

